

教育実習について

1

目次

- はじめに
- 1 心構えとして
- 2 実習生を受け入れる学校現場の動き
- 3 教育実習の概要
- 4 実習中気を付けること
- 5 過去の報告会の報告事例より

2

はじめに

大前提として

実習を行う学生は、
教員免許状を取得するために実習に来ているのではなく、
教員になりたいから実習に来ているのだ。

職業に向けて
明確な意思があるはずだ。
現場はそう理解して準備をしています。

3

実習で得てほしい姿（子どもについて）

子どもがより好きになった。
子どもの笑顔って素敵だと思った。
子どもと一緒にいる時間はなんだかほっとした。
子どもはぎこちないながらも何か真剣に向き合っていると感じた。
子どもたちをみて、勉強だけが学校じゃないと思った。

4

実習で得てほしい姿（教師について）

とかく批判的に教師のことを思ってきたが、自分が学生の頑張りがなかつた子どもをいとおしく思っている教師の姿を感じることができた。

教師自身も子どものことや自らの指導や対人関係や様々なことで悩み苦しんでいることが少し分かった。

教師ひとりひとり、たくさんの経験と様々なおもいを持っている。実習中もつと自分から積極的に課題解決に向けて質問すれば良かった。

5

実習で得てほしい姿（自分について）

学校のことは、自分が経験してきたから分かったつもりでいた自分が少し恥ずかしくなった。

大学でたくさんのことを学んできたが、まだまだ自分に足りないモノがあると気づいた。

これからは、実践的学びや様々な体験を大切にしたいと思った。

6

心構えとして

教育は子どもに対して大きな責任が伴います。

少々きつい言い方になりますが、本来教員免許状を持った経験豊かな教員が保護者の負託を受けて学校の年間指導計画に則って教育をしている現在進行形の教育現場をお借りして、4年生になると教育実習をさせていただく訳ですから、あなたたち実習生が4週間「指導」したことによって、他クラスの子どもたちより成長が妨げられてしまったりすることがあってはならないのです。教育現場に迷惑のかからないように心掛け、プロである現場の先生から様々なことを積極的に学ぶことのできる学生だけが教育実習を受けることができます。

7

指導教官との関係

毎日、「今日もよろしくお願ひします」「一日ありがとうございました」は礼儀

どんなことでも指導教官に相談すること

どんなことでも指導教官に報告すること

自身で勝手な判断はしないこと

実習校に出動してから退勤するまでは指導教官の指導下にあることを自覚すること。（勤務時間前でも、勤務時間を過ぎてても）

出勤途中の交通事故に気を付けること

万が一指導教官に、何らかのあってはならない行為を見つけたときは、教頭又は校長に報告すること

8

貴重な体験、貴重な時間。見て学ぶ、聞いて学ぶ。

教師の一挙手一投足に注目し、学ぶこと。子どもの対応の仕方。言葉・しぐさ・表情。授業中には、授業以外では。

また、教師は勉強を教える以外にどんなことをしているか。

指導教官以外にもたくさんの教師がいる。他の教師からも学べ。

気になったことがあったら、なぜなのか理由を考えてみること。

そして、聞きたいことがあったら、時間をみて積極的に聞いてみよう。

ちょっと待ってと言われたら後にすればよい。

9

子どもに対して気遣ってほしいこと

子どもの人権には十分配慮すること

学校で得た個人情報、学校を去った後も漏らしてはならないこと

子どもの安全に十分な配慮義務を負うこと

子どもへの指導は勝手に行ってはならないこと

子どもから相談を受けたら、指導教官に相談するように促し、指導教官にその旨報告すること

10

子どもに寄り添える「教師」になろう

この子はおとなしい子、この子は集中できない子と勝手に切り捨てない。子どもの心に時に静かにそっと、時にやんちゃに楽しく、飛び込んでいきなさい。

子どもにレッテルを張ってしまう前に、どの子も寂しがりや、話しかけられたいと思っていることを思ってください。

子どもに寄り添える教師を目指してください。

子どもの心に自分の方から下りたってあげてください。いつの間にかあなたは○○の籠を着てしまうことであなたから子どもは遠ざかってしまいます。あなたも子ども時代があったのですから子どもの気持ちを理解しようとしてあげること。子どもが心を開いてくれれば、子どもの表情はゆるみ、語りだします。

11

実習生のあなた自身

どうしようか、どうしたらいいんだろうと大いに悩むこと。

悩まないで、指導教官の言われた通り、指導書に書いてある通り

最初はやってみてもいいが、これで終わりじゃ、不完全燃焼だ。

せつかくの機会だと思って

自分はこの子たちの成長を引き出すためにこう考えたというものを指導教官にぶつけてごらんさい。

また、大学で学んだ「授業方法」や様々な授業スキルを自分でチャレンジしてみてもごらんさい。失敗を恐れずに。

12

授業について

まず型通りやってみる。しかし、うまくやろうで終わらない
発問・板書・半具体物・・・一人残らず全ての子が楽しく参加できるように自分なりの工夫を考えるなど「敬を出してみる」「創意工夫」は子どもへの愛情
おもしろそうな興味を持った授業方法があったら試してみる
子どもにとっていい授業とは何なのか
分かりやすい授業とは何なのか
子どもにとって刺激的な授業とは何なのか
子どもの心を揺さぶる授業とは何なのか

13

学生の立場を捨て、現場教師に見習え

- 1 謙虚な姿勢で・・・学校で教わった経験や、大学で様々な学びをしたとしても、教師経験はゼロ。全くの素人が全て1から教わりに行くというのが事実。
- 2 分からないことは教えていただく・・・2度とない現場経験です。分かったつもりやこういうもんだと自分勝手に納得はダメ。教育現場の先生方はたくさんの経験や苦労をしている。得るものは山ほどある。
- 3 教師はなぜそうしているのか・・・教師の立場に立ってその真摯な姿や教育愛を真剣に考えてみる。
- 4 優しい言い方に・・・先生方は決してきつい言い方はしない。未熟なあなたたちを育てるのが教育者の魂だから。優しい言い方に甘えず、自分に厳しく。

14

実習生を受け入れる学校現場の動き

○実習担当窓口は教務主任がなることが多い。
○指導教官は、実習生はほぼ毎年受け入れるので、輪番で回すことが一般的である。実習生を受け入れるクラス担任や担当教科教諭が指導教官となる。指導教官は、原則、教職経験2～3年といった経験の浅い未熟な教師をつけることは避けている。経験5年から15年程度の教師をつけることが理想ではあるが、現場は、このところ、経験の浅い教師が増えており、困難な場合もある。

15

○実習受け入れ可否判断は校長

受け取った実習依頼の電話は、必ず、校長に回し、校長が受けるのが原則である。校長は、その電話の内容及び応対等で学生が受け入れるに問題がないか判断する。また、後日、学校に訪問を促し、面接で判断する場合もある。学校が児童生徒指導上手一杯であるとか、特別な研究指定を受けているとか、既に予定している実習生がその時期にいて学校のキャパ上受け入れが難しい場合、職員の療休・欠勤等も勘案し判断する。様々な学校事情もあり、校内人事にも絡んでくる。

16

○受け入れ学校は、実習指導計画を作成

実習担当が、教育実習指導計画を学校行事等との関係を見て細かい日程調整を行うと共に、職員の役割分担を考え原案を作成し、職員会議議案として検討し、全教職員の協力のもと実施できる体制を組む。

17

教育実習の概要

教育実習は、一般的には、1種では4週間、2種免許では2週間の実習期間を組む。最初の1週は、全校朝会等で全校の子どもたちに紹介され自己紹介をする。実習内容は、一般的に、「指導講話」（5～6程度）と「示範授業」（7～8程度）、そして、学習指導案を作成しての授業「教壇実習」（2程度）、最後に一日クラスを朝から暮りまで任される「全日経営」、が一般的である。2種免許2週間の場合、「指導講話」（2～3程度）と「示範授業」（3～4程度）、そして、「教壇実習」（1程度）である。

18

○「指導講話」の内容

「指導講話」とは、校長講話、教頭講話、教務主任、児童生徒指導主任、保健主任の他、安全主任や特別活動主任の講話がある。校長は、学校教育目標・学校経営など、教頭は学校管理・服務など、教務は教育課程などの講話内容である。児童生徒指導主任、保健主任、安全主任や特別活動主任はそれぞれの担当から見た子どもの実態と取組が主な内容。

19

○「示範授業」の内容

「示範授業」は、小学校なら、道徳、総合的な学習の時間も含めて全教科主任に依頼して基本すべての教科の授業を1時間ずつ参観、中学校は実習生の担当教科を中心に数時間参観する。

20

○「教壇実習」の内容

学習指導案を作成しての授業「教壇実習」は、小学校は主要教科国語算数社会理科から1つ～2つ、技能教科体育音楽図工から1つ程度行うことが多い。指導教官、教科主任が参観し、参観後、教授方法について指導する。大学側担当者（教育実習担当教官）が「教壇実習」を参観し、直接指導する大学もある。校長も参観する場合もある。

21

○学習指導案略案による授業

「教壇実習」の前に、何時間か、学習指導案略案で教壇実習の教科も含めた授業を行う場合が多い。

略案による授業を何回かやることで、実習生は、授業場面に、少し慣れ、学習指導案作成のヒントを得ることができる。その流れの中で「教壇実習」に臨める。

22

○「全日経営」

教育実習の最終日又は、前日に、配属クラスを朝から帰りまで一日通して任される「全日経営」は、朝のHR、給食指導、清掃指導、帰りのHRまで、実習生が行う。仮の担任としての一日を過ごす。言わば、学級経営を任せられる。指導教官は原則事前、事後に実習生に指導するが、その場では指導せずに、そばにいて実習生の動きを参観している。

23

実習中気を付けること

礼儀（敬語、「申し訳ありません」「ありがとうございます」）、言葉遣い（子どもを呼び捨てにしない）、挨拶（校長及び全職員及びできるだけ多くの子どもたちに）、服装（リクルートスーツ、靴、靴下の色、髪の色形茶髪厳禁、ピアス厳禁）、遅刻厳禁（公共交通機関を利用）、出勤簿の出勤時押印（斜め押し、まとめ押し厳禁）は最低限気をつけること。実習日誌はきれいな字で9割以上毎日の実践と反省点を記入しその日の退勤前には提出（たとえ指導教官が許しても）すること。

24

教育実習のわきまえ

子どもの人権には十分配慮すること
体罰を絶対しないこと
個人情報持ち出しをしないこと
実習と関係のない会話はしない
子どもの安全には十分配慮すること
子どもたちとの個人的な連絡や付き合いは終了後も含めもちろん厳禁
※P10と重なる点がありますが・・・

25

過去の報告会の報告事例より

A例

○授業中、近くの子とおしゃべりを続ける子たち、無視して授業を続ける教師（実習生が参観した）・・・こういうのってどうなんだろう。

- ・ほかの子に迷惑をかからないなら
- ・注意をすると、後で仕返しが怖い
- ・先輩教師が注意しないんだから、そういうやり方も
といろいろな意見が出る。

26

B例

○部活動でいじめられていることを、そっと内緒で打ち明けられた、部活顧問も、担任も知らない・・・

- ・誰にも言わないでと言われたんだから
- ・聞いてあげただけでも本人にとっては
- ・先生が動くことさらにいじめられる危険があるから
といろいろな意見が出る。

27

C例

○授業中眠ってしまったっている子がいる。どうしたらいいの
か・・・

- ・そのまま寝かしておく
- ・とんとんと肩をたたく
- ・起きなさいときつく言う
などいろいろ意見が出る。

28

D例

○とにかくうるさいクラス、どうしたらいいか

- ・HRも座らない。全員座るまで7分
- ・授業も大変
- ・このクラスの成績はかなり低くなると考えられる。集中できていないからである。
- ・そのことも含めて、子どもたちに一回しっかりと考えさせなければい
ない。

29

E例

○休み時間に、男の子同士のじゃれ合いから、殴り合いに発展、
どうしたらいいののか。

当然、止める。冷静にならせ、各自反省させ、反省謝罪の気持ちを
を交流させる。相手をけがさせるという意味について考えさせる
とともに、気持ちの自己コントロールの大切さを考えさせること
をポイントに。気分転換の重要性と、学習内容の詰め過ぎ、過剰
な競争心のおおりに等しいらを助長するような学級指導になっ
ていないか教師も自己反省すること。

30

F例

○全く授業についていけない子がいるのが分かった。中学校で、 $\square \times 2 = 6$ が分からない。どうしたらいいか。

分かりやすい授業に心がけること。また、学校における支援教育の体制を確認すること。何らかの形でこの学校も、学習理解が遅れている子どものために手立てを講じている。例えば、少人数指導やT T指導、通級指導、学習支援員、学習支援ボランティアの配置等である。担任や空き時間の教員が休み時間や放課後も含めて取り出しで指導する場合、長期休暇中に希望者の補習等も行っているところもある。

31

G例

○特に問題なくあっさりすぎた、教科指導は順調にいった

これは、いいようで一番いけないパターン

実際、「問題なく」なのか、実習生自身が気が付かなかった可能性が高い。

「指導は順調」なのか、これも実習生自身が気が付かなかった可能性が高い。

自己肯定感が強すぎる人は、逆に、正しい反省がないので、進歩がない。至らぬところがって当たり前。

32

○教育相談コーディネーターを中心にケース会議

原因分析とこれからの方向性を確認する等チーム対応する。

- ・ 該当者・周りの子含め、不満不安を吐き出させ、事実に向き合わせることで。 (聞き取りと話し合い)
- ・ 子どもを含めた改善計画づくり・話し合い活動
(子ども同士の信頼関係の構築が真のクラスづくり)
- ・ 授業改革 (分かりやすい授業・楽しい授業の工夫)
- ・ 学習支援 (学習の遅れがみられることが多い、取り出し授業)
- ・ 教育相談 (不応の解消)

33

「ブナの原生林」である

素晴らしい感性と受容力を持った素晴らしい学生たちは、とてもいいところを見て、感じ取ってきたといつも思っています。

自分の教育の理想を決して見失うことなく、子どもたちの純粋さや純粋さゆえに混乱してしまう若さを素晴らしいものとして捉え、苦しみ悶えながらも必死に全力を尽くし教職の道を進む教師でありたいと願う、そんな教師になってほしいものだと思います。

私は、あなたたちの純粋さに期待したいと思っています。

34

教育実習で、自分がスムーズに授業ができたのは、

自分の努力はもちろんですが、実習生の授業を一生懸命受けようとする子どもたちを長い時間かけて育てている担任の先生の並々ならぬ日々の努力が99%、その土俵があったからこそできた授業、自分が教師になったら、その土俵を作れる教師になってください。

35

なお教育実習では教壇実習の指導単元と指導場面をできるだけ早く決めて速やかに学習指導案作りに取り掛かることを勧めます。

教職課程を取る学生は、たくさんの単位取得が求められていますから、やる気根気元気が必要です。教職は専門職としての知識がたくさん必要です。しかも、教育実習や教員採用試験といった難題も越えなければなりません。教員採用試験は、専門教養・教職教養・一般教養といった幅広い内容の一次試験と、模擬授業や面接試験といった二次試験があります。場合によっては、実技試験を伴う場合もあります。そのような難関を経て、大変難しいと言われている仕事内容の教職を挑戦する多くの学生は毎年大変真面目な学生が多いです。その真面目さと子どもが大好きならばきっといい教師になってくれるはずです。早めに準備に取り掛かりぜひ夢をかなえてほしいと思っています。一人でも多くの若者が教育現場で大活躍してくれることを期待しています。

36